

2019年12月3日

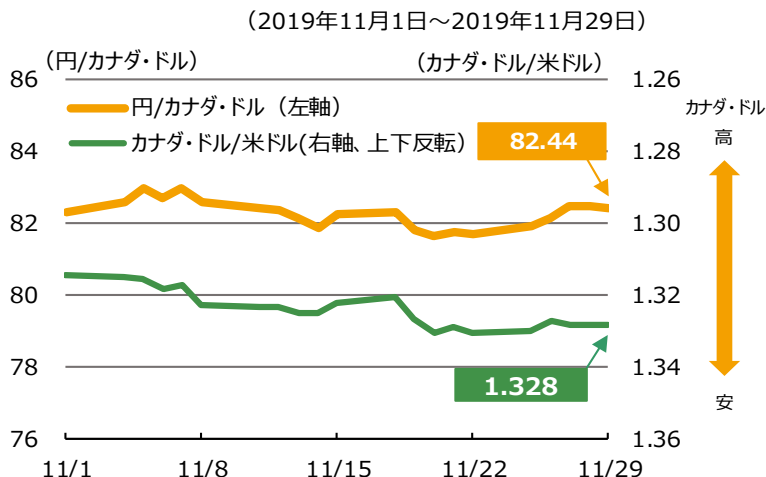
### 先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で上昇しました。また、カナダ5年国債利回りはおおむね横ばいになりました。

カナダの金利は、カナダ独自の材料が不足していたため、米国金利につられ方向感のない動きとなりました。カナダ・ドルは、株式市場が堅調に推移し、投資家のリスク選好姿勢が強まったことを背景に対円で上昇しました。

経済指標ではカナダの第3四半期のGDP（国内総生産）が発表になっており、市場予想通りの結果となりました。

### カナダ・ドル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

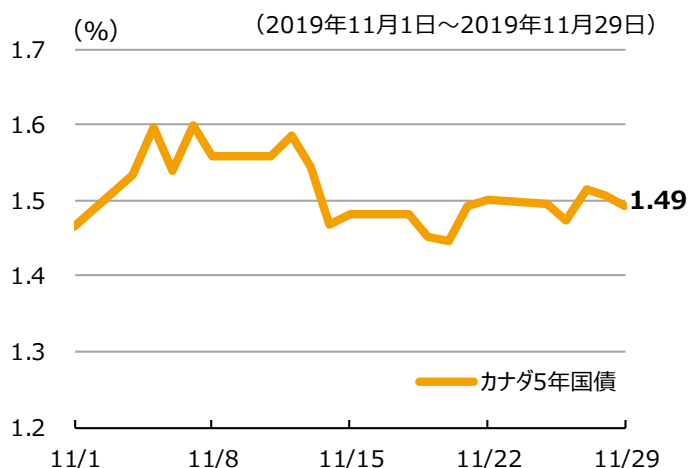
### 今週の見通し

今週、カナダではカナダ銀行（中央銀行）の金融政策決定会合が予定されており、市場では政策金利の据え置きが見込まれています。また、雇用統計の発表が予定されています。

米国では今週、ISM（全米供給管理協会）製造業景況感指数が市場予想を下回る軟調な結果となったことから、景気の先行きに警戒感が広がり、足元の投資家のリスク選好姿勢が若干後退しています。ISM非製造業景況感指数や雇用統計などの発表も予定されており、今後の景気動向を見る上で注目が集まります。

また、引き続き貿易をめぐる米中の動きに今後も市場が振らされることが想定されるため、注視する必要があります。

### カナダ 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。